

公募でも落札率90%以上

2年連続や「100%」も

大阪市環境事業局 入札見直し

競争入札の公正さを高めるため公募型を導入した大阪市環境事業局発注の業務委託の入札で、35件中7件で予定価格に対する落札額の割合（落札率）が90%以上に達していることが28日、わかった。なかには落札率100%が続いているケースや、落札業者の7割以上が翌年度も連続して落札した例もある。制度を見直しても依然として続く落札率の高さに、同局は「入札は適正に行われたと考えているが、高止まりしていることは問題」と頭を抱えている。

【公募型導入後も落札率が90%を超えた入札】

業務名	落札率	導入前	導入後	落札額
道路清掃（20カ所）	平均	94.9%	94.9%	10億1280万円
公衆トイレ清掃		98.5%	99.2%	1700万円
焼却工場のダイオキシン類測定業務		76.4%	91.4%	1120万円
家庭ごみの実態の集計分析		98.7%	94.7%	680万円
PCB廃棄物処理事業の環境モニタリング		94.9%	95.2%	138万円
焼却工場のダイオキシン類対策 浄空気供給設備の保守点検		100%	98.2%	170万円
北港処分地埋立用材（山土）検量		100%	100%	145万円

※導入時期は道路清掃のみ17年度から、その他は18年度から

べ、新規参入業者の増加などで談合防止にもつながらとされている。

市によると、平成17、18年度に公募型指名入札を導入した業務委託35件のうち、落札率が90%以上だったのは、道路清掃（20カ所）が平均94.9%

▽公衆トイレ清掃管理99.2%▽焼却工場内のダイオキシン類対策浄空気供給設備の保守点検98.2%▽北港処分地埋め立て用材（山土）検量100%など7件。

このうち市内20カ所の1カ所ごとに入札を行っている道路清掃では17年度以降、公募型を導入したが、17年度に落札した20業者のうち15業者が18年度も連続して落札。平均落札率も導入前の16年度94.85%、17年度94.85%、18年度94.89%とほとんど変わらなかった。18年度の落札額は計10億1280万円だった。

こうした実態に、市議からは「それぞれ18、31業者が参加して入札を行っているのに、前年度に落札した業者のほとんどが次年度も落札し、落札率が高止まりしているのはあまりに不自然だ」という指摘があがっている。

北港処分地に船舶によって搬入される山土を検量する北港処分地埋め立て用材（山土）検量では、18年度に公募型を導入したが、17、18年度とも入札参加業者は同じ2つ（17年度）と144万9000円（18年度）でそれぞれが落札していた。同局は「応札した団体が2団体に限られており、予定価格も過去の実績などから推測したようだ」としている。

公募型指名競争入札は、工事や業務ごとに一定の条件を満たす業者を幅広く公募し、指名業者を選定基準などに適合する業者を指名、入札を行うことができる指名競争入札に比べて、あらかじめリストアップした業者だけが参加できる指名競争入札に比べて、新規参入業者の増加などで談合防止にもつながらとされている。

市によると、平成17、18年度に公募型指名入札を導入した業務委託35件のうち、落札率が90%以上だったのは、道路清掃（20カ所）が平均94.9%

このうち市内20カ所の1カ所ごとに入札を行っている道路清掃では17年度以降、公募型を導入したが、17年度に落札した20業者のうち15業者が18年度も連続して落札。平均落札率も導入前の16年度94.85%、17年度94.85%、18年度94.89%とほとんど変わらなかった。

こうした実態に、市議からは「それぞれ18、31業者が参加して入札を行っているのに、前年度に落札した業者のほとんどが次年度も落札し、落札率が高止まりしているのはあまりに不自然だ」という指摘があがっている。